



地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和2年度 きこえとことばの基本研修会

第5回 「聴覚障がい児の進路実現のために身に付けたい力」

講師 聴覚支援学校進路指導主事 高等部 教諭 松崎 淳一
地域支援センター特別支援教育コーディネーター 教諭 秋元昭江

11月11日(水)、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、第5回きこえとことばの基本研修会を開催しました。卒業生の進路状況と課題について、その課題改善のための自立活動の指導について学びました。



卒業生の進路状況と課題

★高等部卒業後の進路

- ・進学(大学・短大・専門学校・特別支援学校専攻科・職業訓練校など)
- ・就職(正社員・期限付き・パートなど)
- ・福祉サービス(就労移行・A型・B型・生活介護など)
- ※本人・保護者の希望を確認しながら決定

★課題

- ・コミュニケーション不足、困ったときに発信できない、メモがとれないなど
- ・自己管理、体調管理ができていない
- ・いろいろな経験不足で自ら行動できない。
- ・家庭内で相談できない。



課題改善のために

★言語力を身に付けるために

- ・相手の言葉を聞き、正しい日本語で答える力を育てる。
- ・手話表現を正しい日本語表記できる力を育てる。
- ・語彙数を増やし、正しい漢字の読み書きができる力を育てる。

★社会性を身に付けるために

- ・自分の障がいの状態についての理解、きこえの限界と可能性を知る力を育てる。
- ・周囲に自分の障がいの状態を説明し、必要な支援方法を依頼できる力を育てる。
- ・支援がない場合でも、理解をもとめて活動する意欲と行動力を育てる。

自立活動の充実を

- ・自立活動の指導は、特設の時間だけではなく学校教育の全体を通して適切に行うものであり、普段の生活において、自立活動の指導内容を意識したかわりが大切。教員全員が指導者。

私たちが忘れてはいけないこと

- ・補聴器や人工内耳の電池の確認。電池がないと聞こえません。
⇒補聴器や人工内耳が正しく装着されたうえでのかわりがとても大切。体験したことや体験することを身振りや手話表現だけではなく、その内容を正しい日本語で話したり書いたりする活動の積み重ねが言語力の向上へ。一朝一夕には身に付かない。毎日の積み重ねが大切。



<参加者の感想>

- 進路実現に向けて、その流れや必要とされるスキル、検討事項を詳しくお話ただけて勉強になりました。将来、自立した社会人になるために身に付けなければならないことがよく分かりました。
- 進路実現のために身に付けたいお話では、「自立活動」の時間を改めて大事にしていかななくてはならないと感じました。さまざまな資料提示もいただきましたので、今後の参考にしていきたいです。
- 自立活動については、学級ごとの実践をぜひ見てみたいと思いました。今回のような体系化された資料は実践する立場として、とても役に立つと思いました。